

# JCRミッドサマーセミナー2022

## ランチョンセミナー1

**日時** 2022年7月16日（土）12：00～12：50

**会場** 神戸ポートピアホテル南館 大輪田A「第1会場」  
（〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目10-1）

**開催形態** ハイブリッド開催（現地＋WEB配信）

## PETにおけるAI(人工知能)の動向

座長

**渡邊 嘉之先生**

（滋賀医科大学 放射線医学講座 教授）

演者

**平田 健司先生**

（北海道大学大学院医学研究院 放射線科学分野  
画像診断学教室 准教授）

本セミナー聴講には学会参加登録が必要です。詳細は学会ホームページをご参照ください。  
なお、本セミナーはオンデマンド配信を行いません。

学会ホームページ：<https://jcr.or.jp/seminars/midsummer-seminar2022/>

EXPERTS PET REPORTING 掲載動画(抜粋)

悪性リンパ腫のPET/CT読影

～臨床医が求めるレポート作成の基礎～

演者 寺内 隆司先生  
がん研究会有明病院  
核医学部 部長

悪性リンパ腫領域のPETについて、基本的な読影ポイントおよび臨床医に響くレポート作成の基礎・コツをご紹介します。

Lugano分類

初発の悪性リンパ腫の病期診断基準

病期	病変部位	診断要点
I期	1つのリンパ節、もしくは1つのリンパ節領域に1つの病変が存在	リンパ節病変を伴わない1つの節外病変が存在
II期	横断断層の2以上のリンパ節領域に病変が存在	
III期	bulky病変を有する期	
IV期	横断断層のリンパ節領域に病変が存在；異病変と異断層上のリンパ節病変が存在	
進行期	リンパ節外臓器に非連続性病変が存在	

臨床医に響くレポート作成のコツ

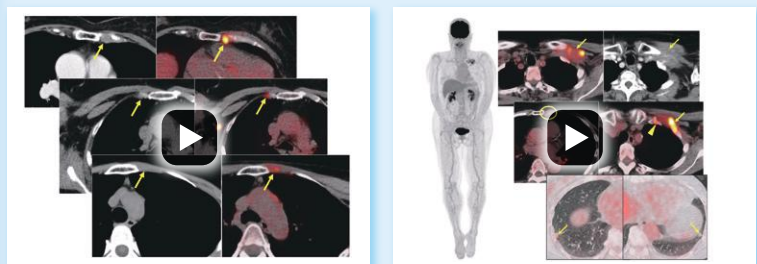
- ❑ 疾患ガイドライン、病期分類になるべく精通する
  - I～IV期を記載することが望ましいが、限局期/進行期の記載でも可
  - 病期でも所見から病期が推測できるように記載
  - SPSの評価がしやすいよう、組織腫瘍学で最大直径ブールのSUVmaxを記載
- ❑ リンパ腫病変が出現した部位をチェック
  - 口蓋扁桃 (Waldeyer輪)、扁桃、咽頭、消化管、腸胃など
- ❑ 組織型による病変分類の特定を促さえる
  - MCL：消化管、PMBL：肝臓、性腺原発DLBCL： CNS、TCL：皮膚、等
- ❑ 共通の言語を使う
  - Lugano, Ann-Arbor, Deville criteria (SPS)、節性/節外性病変、Waldeyer輪、relapse等
  - リンパ節領域は比較的大雑把でもよく、他の臓器の非はなるべく使用しない
  - 転移という言葉は使わない

乳癌PET/CT読影

～臨床医の期待に応えるレポート作成～

演者 佐藤 葉子先生  
山梨PET画像診断クリニック  
院長

乳癌診療におけるPETの重要性およびインパクトを与える読影と臨床医の期待に応えるレポートについて解説いただきました。



頭頸部癌のFDG-PET/CT診断のポイント

～より良いレポート作成のために～

演者 石守 崇好先生  
国立大学法人 京都大学大学院  
医学研究科 放射線医学講座  
(画像診断学・核医学) 准教授

頭頸部癌領域のFDG-PET/CT診断のポイントを、豊富な症例とレポートの実例を紹介しながら解説いただいております。

生理的集積一左右対称のものが多い

口蓋扁桃、耳下腺、舌下腺、咽頭、喉頭

リンパ節転移の評価(N因子)

- ・ 炎症による偽陽性、サイズが小さいことによる偽陽性に注意。
- ・ 節外浸潤の厳密な評価は(明白な浸潤を除き)難しい。
- ・ レポート上でN分類として明確にするかどうかは意見が分かれるが、N分類の評価を念頭に置いた記載は必要。
- ・ 同側か対側か
- ・ 単発か多発か
- ・ 最大径
- ・ 部位(上咽頭癌・甲状腺癌では特に重要)
- ・ 明確な節外浸潤所見があれば記載

消化器がん領域のFDG-PET診断

～若手に伝えるpearls and pitfalls～

演者 中谷 航也先生  
公益財団法人  
大原記念倉敷中央医療機構  
倉敷中央病院  
放射線診断科 核医学診療部長

大腸がんのFDG-PET/CT読影について、実例を紹介しながら遭遇するピットフォール等を解説いただいております。

